

# TEIKA

Teikyo University of Science

ニューズレター 2014 第27号



巻頭特集

## 「大学祭」

科大祭 @上野原キャンパス

桜科祭 @千住キャンパス

### メッセージボイス

地域の声 / 保護者の声 / 卒業生の近況報告

キャリア支援センターのお知らせ

/ 卒業式・入学式 / 新任・退任教員の紹介

いのちをまなぶキャンパス。

 帝京科学大学

特集

◆ 学生のサークル活動と地域の交流レポート

◆ 教員の活動報告

# 大学祭



大好きなTEIKAだから知ってほしい！  
TEIKAの魅力にふれてみて！

## 2014 科大祭 上野原キャンパス

### 日本の和・地域の輪

昨年の科大祭では学生による模擬店やステージ発表、先生方による学術発表があり、後夜祭ではキャンプファイヤーを囲む学生たちの様々な表情をうかがうことができました。終わったことによる達成感に満ちた笑顔や幾度となくぶつかりあってきた仲間との抱擁、やり残したことへの悔し涙…。そんな昨年の想いを継ぎ、いま新たな科大祭が動き出します。

今年のテーマは「和」です。テーマの理由は、日本の伝統やお祭を学生、地域の方々と協力して科大祭で表現したい!! と思ったからです。

すでに科大祭実行委員は地域の方々に参加して頂くために走り回っています！ 地域の方々の本気、見たいですねっ☆もちろん学生の模擬店も負けていませんよ!! そして科大祭では、なんと！ 皆様のご家族のワンちゃんと一緒にお祭を回れるんです☆

!!!!!!これは科大祭だけなのです!!!!!!

ワンちゃん専用の設備もありますので、安心してワンちゃんと

一緒に科大祭を楽しんじゃってください  
(\*^ω^\*)

科大祭を締めくくる後夜祭の目玉は花火です!! …え??手持ち花火?? そんなまさか! (笑)

本物の打ち上げ花火をあげちゃうんです!!  
もちろん後夜祭は学生ではなくても参加OKです♪

大学の敷地内で打ち上げられ、間近で見る花火は迫力や華やかさとは別に見る人の心に科大祭の終わりを告げてくれます。こうして科大祭は幕を閉じます。

来てくれる方々、地域の方々、学生みんなの笑顔があるから私達は頑張れます!!

科大祭は皆様に来てくれてやっと完成します。

一人でも多くの方に来ていただけることを科大祭実行委員一同、心よりお待ちしております。

科大祭実行委員会委員長 ● 秋山 美里 (アニマルサイエンス学科 3年)



#### 科大祭 TOPICS

#### 科大祭の裏話

皆様!! 見たことありますか?

階段の段差を利用して1枚の絵に見せる階段アート。

1枚の絵に見せるために、階段1段ずつ丁寧に測っていますが、本館棟では1階から4階まで一気に測って貼るので、想像以上に大変な作業です(・ω・;)

毎年大きな紙に実行委員が絵を描いて、切り貼りし、汚さないために手作業でラミネートもしています。

そしてお祭りと言ったらやっぱりから揚げ、クレープ…。花より団子の私にはそっちに目がいきます!!

来場者の安全を守るために1時間半をかけて保健所に行っています!! 模擬店で売られてるものは、保健所に申請した食材を使用しています。全団体が使用する食材の産地、個数などを調べたり、確認したり、責任を持って仕事をしています。



## 11月に咲かせる大きな桜

皆様こんにちは、桜科祭実行委員会委員長の渡辺弦輝です。

昨年の第3回桜科祭では地域の方々、遠くから来てくれた高校生、本学の学生など沢山のひとと共に昨年のテーマ「桜科爛漫」に相応しい桜を来場者や自分達の心に咲かせることが出来ました。本当にありがとうございました。また、地域の方々に本学の学生はどんなことを学んで、何をを目指しているかを知ってもらうため大学祭実行委員会は設立されました。その目標に年々近づいていることを感じており、その目標の達成を目指し、今年も桜科祭実行委員会一同、昨年を超える桜を咲かせるように、日々努力しております。

今年の第4回桜科祭は11月1日(土)、2日(日)の2日間開催予定です。今年のテーマは桜科祭に来て頂いた方、作りあげる学生、それを支えて下さっている地域の方々の笑顔や人脈を色に例え、沢山の色が集まる場所になるようにという願いを込め「逢彩(あいさい)」に致しました。もちろんこのテーマに合わせて今年の模擬店やイベントも多彩な企画を用意しております。本学の特色である、アニマルサイエンス学科の「動物ふれあい」、児童教育学科の学生の日々の学修から考えた子ども向けの遊びなどの学術企画を始め、昨年から力を入れて取り組んでいる「お化け屋敷」、サークル団体によるB級グルメ顔負けの模擬店等々を現在予定しております。来場して下さいった皆様が楽しめる企画が必ず見つかるかと思えます。私たち桜科祭実行委員会一同、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

桜科祭実行委員会委員長 ● 渡辺 弦輝 (生命科学科 3年)

### 桜科祭 TOPICS

### 桜科祭の裏話

大学祭をどのようにお考えでしょうか？ 多くの方は高校の文化祭の延長で、芸能人を呼んだりする少し大きな文化祭とお考えではないでしょうか。

私は桜科祭に3年間携わり、違いを最近見つける事が出来ました。それは、自分達の好きな事が出来る幅の広さと、その自由度に比例する責任です。

具体例を挙げますと、大学祭を開催するにあたり広告協賛というものが存在します。それはパンフレットに企業の広告を掲載する代わりに何かしらの形で企業からの援助を受けるものです。

この話を企業の方にする時は学生であるという事は全く関係がなくなり、如何に大人として企業の方に広告協賛から得られるメリットがあるのかプレゼンしなければなりません。

きっとこんな経験は一部の学生しか出来ない事ですが、それが出来るのも桜科祭のよいところだと思っております。



#### ●● INFORMATION ●●

#### 開催日

科大祭

10/11(土)・12(日)

桜科祭

11/1(土)・2(日)

# 学生のサークル活動と



## JAZZ ダンスサークル「an-J」

千住キャンパス

顧問：神谷 純子

JAZZ ダンスサークル「an-J」は主に月曜日と金曜日、19時～21時に2号館の小アリーナで活動をしています。人数は3年生11名、2年生14名、1年生22名の計47名とコーチのSHOTAさんと副コーチのMIKIさんの指導のもと、技術の向上を目指し日々努力をしています。3年目となりました「an-J」。昨年は大学祭でLIVEを行い、足立区フレンドリーマラソン大会の応援パフォーマンスとして出演しました。今年度は6月28日に味の素スタジアムで行われたアクサ ブレイブカップ（第13回アクサ ブラインドサッカー日本選手権）の応援パフォーマンスとして出演しました！

また合宿や、ボーリング大会、花見などイベントや行事も沢山あるので先輩と後輩の仲もより深まります！

ダンスに少しでも興味がある方、是非「an-J」に入って一緒に大学生活をenjoyしませんか？☆ 初心者も大歓迎です！

代表：屋宜 紀公子（児童教育学科3年）



上野原キャンパス

## 陸上競技部

顧問：落合 鍾一

みなさんこんにちは。私たち陸上競技部は小山 慎一先生の監督・指導のもと、総勢30名で主に上野原キャンパスで活動しています。参加競技会は、小瀬カーニバルをはじめ、山梨県陸上競技選手権大会、富士山マラソン、やまびこ記録会、上野原市駅伝競走大会など様々な試合や行事です。また、夏休みには合宿を行い、科大祭ではやきそばの店などをして普段の練習以外でも、先輩、後輩の絆を深め充実した活動をしています。

私たち陸上競技部はグラウンドや器具が十分ではなく、環境には必ずしも恵まれていませんが、一人ひとりが「自分達はサークルではなく部として活動しているのだ」という自覚と誇りを持ち、日々練習に励んでいます。それぞれ入部した動機は違いますが、皆やる気と向上心を常に持ち、「昨日よりも今日、今日よりも明日へ」とより充実した部活動が行えるよう努力しています。今年はその努力の甲斐あって、山梨県選手権大会では、やり投げの新谷 海選手（理学療法学科2年）が見事5位に入賞し関東大会への出場を決めました。また、昨年の上野原市駅伝では一般の部に出場して3位入賞を果たし、念願の表彰台へ上がることが出来ました。

これからも現状に甘えず、創意工夫をこらし、さらに上を目指して頑張っていくと思います。

主将：箕輪 篤志（自然環境学科3年）



# 地域の交流レポート

本学には現在、100を超える課外活動団体があり、それぞれが目標を持ち、地域や学外との連携を図りながら独自の活動を展開しています。今回は、その第5弾となります。

## 写真部

上野原キャンパス

顧問：花園 誠

私たち写真部は、「自由なテーマで楽しく撮影する」をモットーに、現在18名が活動しています。主な活動内容は、年に3回行われる撮影会と定期的に更新しているカフェテリア内の写真の展示です。科大祭では部員が撮った写真の展示と、その写真を使った物品販売も行います。

今年の5月には、新入生歓迎会を兼ねた撮影会を相模湖プレジャーフォレストで行いました。撮影会では風景のみならず、先輩、後輩など、互いにポートレート撮影を行うとともに、昼食時にはバーベキューをするなどして、部員の親交を深めました。撮影会を終えて後日写真を見直してみると、気づかないうちに写真を撮られていたり、でもその写真が個性があって面白かったり素敵だったりしていて、楽しい雰囲気だからこそ、このような写真が撮れるのだと、あらためて感じました。これからも皆で個性溢れる写真を撮れるように、部の良い雰囲気を保ちながら活動を続けていきたいと思います。

代表：小田切 由佳

(アニマルサイエンス学科3年)



## 剣道部

上野原キャンパス

顧問：鳥越 ゆい子

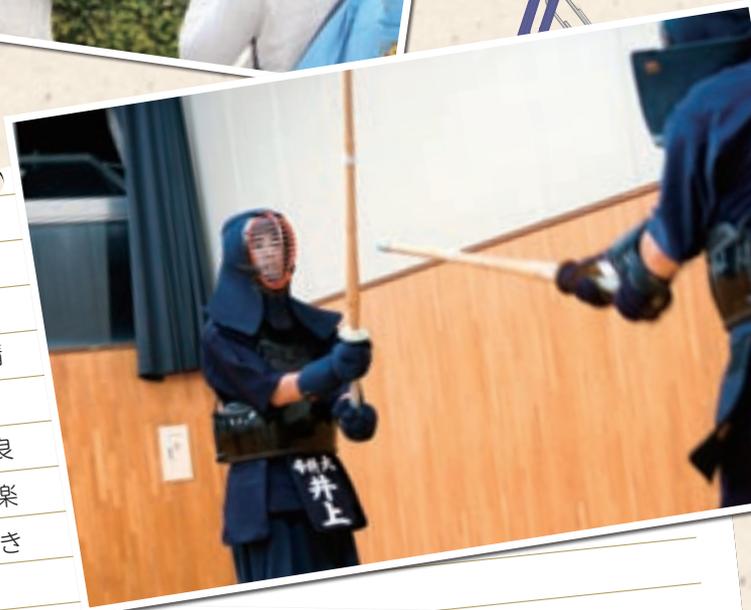
私たち剣道部は、男子11名女子5名の16名で活動しています。私たちは、剣道の稽古を通して礼儀を大切にし、お互いの実力・精神力などを高め合うことを目標に日々精進しています。

多くの都道府県から経験者が入部するので私自身とても良い刺激を受けています。また、稽古はお互い指摘し合い、楽しく行うことにも心がけています。剣道を行う人が減ってきている中、今年は多くの経験者が入部してくれました。

今年初めての試合では、一般の部の個人戦で上位に2名入り良い結果を残しました。部員も増えてきたので、上野原剣道連盟に加入し、試合に積極的に参加しようと考えています。

私たちは、未来の剣道部のために日々頑張っていこうと思います。

主将：井上 耀介 (理学療法学科2年)



# 教員の 活動報告



Teacher's Activity Report

## 国際学会参加記

生命科学科 教授 平井 俊朗



写真1



写真2

2014年5月25日から30日まで6日間、ポルトガル南部の港町、オリオン市で第10回国際魚類生殖生理シンポジウムが開催されました(写真1)。この学会は4年に1度開催され、最先端の研究成果について議論がなされる貴重な場となっています。私は第6回から参加しており、今回は研究室の学生諸君の多大なる頑張りによって成し遂げられた「ニシキゴイのメスをオスに性転換させる研究」についての発表を行なうことが出来ました。ニシキゴイはわが国発

祥の観賞魚で、われわれ日本人が思うよりもはるかに海外での人気が高く、高価なものになると1尾で数百万円から数千円になることもあります。しかも高い値段がつくのはほとんどメスなのです。今回の研究成果をもとにニシキゴイに「メスの子供だけを産ませる」技術の開発へと結び付けたいと考えています。オリオン市は漁業中心の町で、会議の前に立ち寄った魚市場(写真2)には様々な魚が並んでいて活気にあふれており、おいしい料理として提供されていました。

## ニホンザルの赤ちゃん続々誕生

自然環境学科 講師 下岡 ゆき子

3月末に宮城県の島に野生ニホンザルの調査に行きました。ニホンザルは普通、2年に1度、4～6月頃に出産しますが、出産の有無は前年秋の果実のなりよりの良し悪しに強く影響を受けます。ブナなどが大豊作の年には一斉に発情し、翌年多くのメスが出産することがあります。

今年はまさにそんな年で、3月末に既に数頭のアカンボウが産まれており、疑似発情して顔を真っ赤にしたメスもちらほら、そんなメスに引きつけられて群

れ外オスまでやってきて、なんだか妙に群れが騒々しいのです。共同研究者の調査により、6月までに1つの群れで17頭、もう1つの群れで13頭のアカンボウが産まれたことがわかりました。この2つの群れでは長期に渡って全個体を識別し、その社会関係を研究しています。

これからこのアカンボウ達が成長し、1～2歳になってみんなで走り回ったらさぞかし可愛かろうと思う反面、同じサイズがたくさんの子達を個体識別しないといけなくなるんだ、と思うとぞっとします。



## 犬用体脂肪計の開発で見てきたイヌの健康

アニマルサイエンス学科長 教授 大辻 一也

我々が犬専用の体脂肪計を開発するまで、イヌの体脂肪率を測定することは、技術的にもコスト的にも難しく、特に大量の個体を対象としたイヌの肥満に関する調査はできませんでした。我々が犬用体脂肪計を開発したことで、大量の個体を対象とした調査が可能になりました。5,000頭を超えるイヌの体脂肪率を測定したところ次のようなことがわかりました。

- ・日本の一般家庭で飼育されている犬の約25%が体脂肪率35%以上(肥満)であること。

- ・去勢や不妊手術をした個体の体脂肪率が高くなること。特に雄犬ではその傾向が著しいこと。

- ・肥満個体では膿皮症、外耳炎、アトピー性皮膚炎などの感染症になりやすいこと。

さらにイヌの体脂肪率を測定することで、個体ごとの標準体重や適正給餌量が計算でき、肥満防止や健康管理にも役立つことがわかりました。犬用体脂肪計は今や私の研究室の看板になっています。



犬用体脂肪計を使ってイヌの栄養指導を行っています

## 「専門知識を楽しみながら学ぶ」新たな取り組み

理学療法学科 准教授 廣瀬 昇



最近、多くの教育分野においてICT (Information and Communication Technology) を活用した学習支援を図る新たな取り組みが行われるようになってきています。理学療法学科でも実践力のある理学療法士を養成するために動画配信を含めた資料提示や画像解析ソフトなど用いたグループディスカッションなどを実施し、学生と教員の双方性をもった教育環境の取り組みが行われております。さらに、試験的に実習授業でタブレット型端末の3D

教材の活用(骨・筋構造、表皮から骨までの体表解剖)を始めております。学生が主体的に授業に関わることで学習の効率化が期待され、「楽しみながら学習できる」といった教育環境では、紙面上では理解し難い構造学的な内容(解剖学や運動学)にも興味をもつことが予測されます。授業風景では、足関節部位の解剖学モデルに関するタブレット型端末を用いた自発的な学習支援の教育環境の構築を試みております。

## コーチングとコミュニケーション

作業療法学科 講師 小橋 一雄

ある日、一人の水泳コーチが選手にこう言いました「何回言ったらわかるんだ!」。選手は、下を向いたままその場を立ち去りました。あくる日、その選手は競技をやめてしまいました。また別のコーチは「一体何が上手いかないんだい? お前らしくないな。何があったか話してくれないか?」。その後、その選手はコーチと毎日話し合い、ついに大記録を達成しました。これらのやりとりは本質的には同じことを質問しています。でも、その後の二人の関係、そして結果は全く

違ったものになっています。

コーチの役割とは選手が自らの力で目標に向けて行動できるように導いていくことであると考えています。選手の気持ちに共感しながら、選手が話したいことに耳を傾けていくことや、選手がやる気になる言葉の選択が目標達成には不可欠なのです。作業療法はこのような「コーチ」の力が大切になります。私も、作業療法を教える教員として、学生と話すこと、聴くことを大切にして学生がやる気になれるよいコーチでありたいと考えています。



## 足指力強化のための運動具

柔道整復学科長 教授 昇 寛

私の研究テーマの1つに運動機器・福祉機器の開発があります。身近なところにある品々を使って日々の運動に役立てることができれば素晴らしい事だと考えています。

この度、足指力強化運動を目的とし“足指・踵起立盤”を考案しました。両足の足指と踵に荷重して起立するだけの簡易な運動具です。“足指・踵起立盤”は内外側縦アーチが宙に浮き足指と踵に荷重することで、短指屈筋に張力を生じさせ等尺性収縮を起こす構造です。

今、我々はこの“足指・踵起立盤”にヒトが立位で荷重した場合、足指把握力にどのような影響を与えるかを検証しています。この運動効果は、所謂、筋肥大に由来する筋力強化の効果ではなく、筋紡錘や腱紡錘の賦活に由来する可能性を考えて考案しました。このことが立位バランスを安定させ、さらに転倒予防の効果に繋がるのではないかと考えています。この研究は多くの方々の御協力を頂きながら、学生達と共に進めています。



足指・踵起立盤



足指把握力測定の様子

## 足の指がなくなる!?

いきなり脈絡のないタイトルで失礼しました。

私は本年度から東京理学療法学科に



足のゆび使っていますか?

勤めさせていただいております。それまでは病院のリハビリテーション部門で理学療法士として勤務していました。

私の研究テーマの一つに、足趾（足の指）の機能があります。病院で高齢者転倒予防教室を行っていたときに、足趾が機能していない対象者を多く目にしたことがきっかけですが、実はその原点は私の中学時代に遡ります。

当時通っていた病院に「人間の足の指はいずれ退化して無くなる」「するといずれは二足歩行ができなくなり、四つ

東京理学療法学科 助教 金子 千香

這いの生活になる」という記事が掲示されていたのです。

この場においてその真意のほどは言及できませんが、研究を始めてみると、近年では、若年者でも足趾がきちんと機能していない人やそれに伴う足の変形を有する者が多くいることがわかりました。そして、その原因に生活スタイルの変化や履物の影響を挙げている文献も散見されます。

私は人間が二本足で立って歩き続けるためにも、理学療法士の観点から足趾の研究を続けていきたいと思っています。

## T. tonsurans 感染症の研究活動記

東京柔道整復学科 助教 田村 昌大

私の研究内容は、柔道競技における競技分析および柔道選手が罹患する T. tonsurans 感染症における大学生の感染率の推移について調査・検討を行っています。

平成 25 年度は日本医真菌学会において

「The Results of Trichophyton tonsurans Screening Examinations and Infection Management in University Judo Federation of Tokyo Athletes over a 4-year

Period」(共著)が優秀論文賞として選出されました。

T. tonsurans 感染症は、10 年前に海外より流入した菌であり、格技スポーツにおいて著しく感染が広まってきました。体部白癬と頭部白癬に分かれ、頭部白癬の場合はブラシを使い、寒天培養などの手法を用いなければ把握できません。格技において感染した者が一般の人たちへの接触などを通じて感染しないよう実態を把握する必要があるという危惧から本研究は始ま

りました。現在は、減少傾向にあるものの、薬への耐性を持った菌の出現・進化が示唆される可能性が出てきており、今後も継続して行う必要があります。

今回、このような賞をいただくことができましたが、引き続き研究活動を怠らず、大学発展のために寄与していきたいと考えます。



## 模擬患者参加型の技術教育の導入をめざして

看護学科 教授 小葉 祐子

私は、入学して最初に学ぶ基礎看護学を担当しています。基礎看護学では、看護を志す初学者としての基本的な考え方・姿勢そして、看護を実践するための基礎的な知識、技術、態度、倫理を教授します。看護は極めて具体的に実践的な領域ですので、臨場感のある技術教育の工夫、開発が欠かせません。臨場感のある技術教育は、学生が自らの頭で考え・感じることを触発します。そこで、看護実践へ繋がる技術教育方法として、模擬患者参

加型の基礎看護技術演習を導入することを試んでいます。

模擬患者参加型の技術演習を行うことで、学生のコミュニケーション能力が高まり、人を尊重することの大切さなどを育成することに繋がると確信しています。

※模擬患者 (simulated patient) :

模擬患者として事前にオリエンテーションと学習会に参加した一般住民ボランティアをいう。



## 障がいのある子どもの将来を見据えて

こども学科 助教 加納 史章



障がいのある子どもへの遊びを通しての体験

特別支援学校の高等部に勤めていた3年間、「この子たちともっと早く出会えていれば」という思いが常にありました。進学之道がほとんどない彼らにとって、高校という僅かな時間で、社会に出る最後の準備をしなければなりません。もっとこの力を伸ばしたいと取り組んでも、できることは限られてきます。そうしたジレンマから「保育」の重要性を再確認することができました。

私は講義を通して、一人ひとりの子どもに適した保育を行うためにも、「保育者の育ち」を強く伝えていきたいと思います。メイ

ヤロフ (Milton Mayeroff, 1925 -) は「ケアすることは相手が成長し自己実現することを援助することである」と同時に「相手の成長をたすけること、そのことによってこそ私は自分自身を実現するのである」と述べています。つまり、保育者は子どもの中から自身を見て、これまで気付かなかった自分に気づくことが大切であることを示しています。

この「ケア」の視点は私の研究テーマであり、また学生にもそれぞれの保育者像について、一緒に考えてもらいたいです。

## 「しっぽの秘密」ワークショップ&講演会

児童教育学科 講師 木場 有紀

先日、「あだちの大学リレーイベント 企画第3弾 帝京科学大学ワークショップ&講演会『しっぽの秘密』」の講師を務めました(小学校低学年の親子100組もの参加がありました)。動物介在教育に関する教育・研究の経歴から、「動物をテーマとした子ども向けの体験型講演会を」とお話を頂いたからです。

準備期間には、ライオン、キリン、カンガルー、イヌ、ウシ…、様々なしっぽを作りながら、学生の育成にも取り組みました。しっぽの劇を猛練習。さすが見

童教育学科の学生たち! 子どもにとってわかりやすく、そしてより楽しい劇にするための様々なアイデアが次々と。また、動物立体切り絵のワークショップとしっぽブース担当の学生たちとも時間を費やし検討を進めました。

当日の劇は大成功、各ワークショップも学生と小学生たちの熱気で大変に盛り上がりました。帰る際に目の前に来て「楽しかったです!」と言ってくれた子どもたちの笑顔に、これまでの苦労が吹き飛びました。



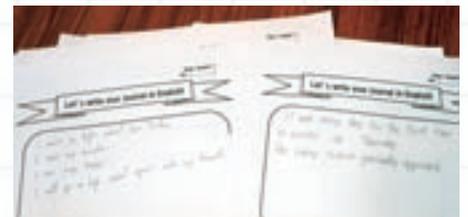
## 英語を書いて自己表現する楽しさを伝える

総合教育センター 准教授 馬場 千秋

私の研究テーマは、「スローラーナーへの英語ライティング指導とその評価」です。英語でのライティングは、中学・高校でも指導が立ち遅れていて、授業でライティング活動を行うと、学生から「何をどうやって書いたらいいかわからない」という声をよく耳にします。文法指導と短い英文パラグラフ作成を行い、毎回、学生が書いた作文にフィードバックをします。半期の間に書くことにも慣れ、書く分量も増えます。フィードバックで増えた英文量やエラーの減少

などを分析した結果、TOEIC Bridgeで130以上の学習者はある程度の英文が書ける「独立した書き手」になることを明らかにしました。今年度からは、日本学術振興会の科学研究費基盤研究(C)を受けて、ライティング課題を自由設定して定期的に英文を書く「ジャーナル・ライティング」でのフィードバック研究を行っています。

また、初級学習者向けライティング評価基準作成をしており、今年中の完成を目指しています。



## 学生と大学の文化をつくる

教職センター 講師 福田 八重



写真は学生の作品です。

私は、教職センターの教員として、生命環境学部の学生の教職課程を担当しております。専門分野は「教育学」です。

生命環境学部では「中学校、高等学校教諭一種免許状(理科)」を取得できます。

中学校・高等学校の教師は、生徒が主体的に自校の文化をつくる力を育む役割を担います。大学の授業では、教師としての力量形成と学生生活の充実のため、大学の文化をつくることに積極的に寄与する場面を設定しています。

その取り組みの一つとして、昨年度、千住キャンパスの「特別活動の指導法」の授業で、「本学の図書館を利用する学生・教職員に、本との出会いと本を読むことの楽しさを提供し、図書館の活性化に寄与すること」を目的とし、図書館の本を対象に「本のポップ」を作成しました。

学生の作品は、本年度、本学図書館に掲示されます。また、平成26年2月に実施された中学・高等学校の先生方の実践交流の場である「授業改革フェスティバル」の教材展にも出展しました。

## 教員をめざす学生への総合的なサポート

教職センター長 教授 小池 和男

本学では、2014年4月に、千住・上野原の両キャンパスに教職センターを設置し、教員免許取得および教員採用試験に向けて、より一層のサポート体制を整えました。開設当初から、学校現場における教育ボランティアや教育実習に向けた構えと事前の備え、学校での児童・生徒および先生方との接し方などの相談で学生が毎日のように来室しています。また、各都道府県の教員採用試験の教職教養・専門教養論文、面接等の選考試験対策をどのように行うとよいかなど、明確な目標をもって来室する学生も多く、具体的な助言・指導に真剣なまなざしで聴き入る学生の姿が印象的です。

このように、本センターの教職アドバイザーの先生方を中心に、学生のニーズに応じたきめ細かな個別指導を行うことができるようになりました。現在、「教育に対する熱意と使命

感を持ち、豊かな人間性と思いやりのある教師」「子どものよさや可能性を引き出し伸ばすことができる教師」など、実践的な指導力のある教師が求められています。本センターでは、現場実践力を身に付ける学びの場である地域との連携を深めながら、「教員になる」学生の目標の実現を強力にサポートしていきたくと考えています。



本校は文部科学省指定のスーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) に指定され、今年で10年目を迎えますが、帝京科学大学との連携無しには、現在のような充実したカリキュラムは創り上げられなかったと考えています。

夏季休業中の丸一日をかけての大学訪問研修では、大学内の充実した施設・設備を惜しげも無く提供していただき、大学生並みの講義・実験実習を展開していただいています。この企画は毎年生徒達から抜群の支持を得ています。今や必須となりつつあるプレゼンテーションスキルを上げるための「プレゼン講座」、時代のニーズを平易な言葉での確

に解説する「環境科学講座」といった企画では、わざわざ本校まで足をお運びいただいています。また、4年次生に來校してもらい、卒論の発表会を開催していただいています。これらの企画が成立することで、本校の生徒達が大学への進学意欲を高めることができるのは、この上ない喜びのひとつです。

接続する学校間での連携が声高に叫ばれる昨今、本校と帝京科学大学との間に育まれつつある“高大連携の果実”は、確実に大きく熟しつつあると感じています。



## 活躍する卒業生 曾根 祥仁さん (医療法人小宮山会 貢川整形外科病院 リハビリテーション科 理学療法士) からの近況報告です。

大学時代は先生方に国家試験に向けた勉強だけでなく、臨床の話も織り交ぜながらたくさんのお話をいただきました。臨床の話聞いていたおかげでイメージは持っていたものの、実際は勉強してきたことが思い通りにいかなかったり、先輩理学療法士と同じように治療を行えなかったりと悔しい思いをしました。その体験をしてから、少しでも病気で苦しんでいる患者様の役に立つために、知識・技術の習得が必要であると考え、

様々な勉強会に参加してきました。また一年目から研究を行い、臨床での疑問を解決し、さらに理学療法におけるグローバルスタンダードを確立できるように毎年学会に参加し発表を行ってきました。現在は、より多くの知識や技術を得るために英語論文を読み、最新の知見を取り入れながら治療を行っていただけるよう日々努力しています。これからも、患者様の質の高い日常生活の獲得を目指し、精進していこうと考えています。

## 保護者の声 伊能 一良様 (こども学部 こども学科 3年 伊能 佳那さんのお父様) からメッセージをいただきました。

娘が大学生になり早いもので3年生になりました。

当初より本人が電車通学を望んでいたため、意向通り現在実家から1時間半ほどかけて電車通学しております。入学当時は本人もさることながら我々両親もいろいろ心配ばかりでした。朝早くに朝食を食べさせ、忘れ物がないか何回も確認をうながし、駅まで30分かけ車で送って行きます。さすがに今では大分慣れた様子で、余裕を持って駅までバイク通学しています。入学当時に比べると、本人も更に明るく楽しく過ごしているようです。

昨年の夏休みに娘の友達が大家族に遊びにきました。みんな明るく元気な子ども達で私も一緒になってみんなの輪に参加させていただきました。皆と一緒に話をさせてもらい、大変楽しく過ごさせていただきました。若い希

望ある学生達と接することで私自身も若さとエネルギーがもたらされたような気がします。元気に明るく、いきいきと活動している我が娘の姿を見ていると、少しずつではありますが成長している実感があり、頼もしく感じました。

山梨県立科学館で11月に開催される「科学の祭典」に娘が授業の一環として参加するので、どうしても誘われ見学させてもらいましたが、ここでも積極的に子ども達と接している姿をゆっくり見させてもらうことができました。娘が希望通りの保育の道を目指し、更にのびのびと頑張っていけるよう、これからも応援していきたいと思っています。

同時に大学生活を通して、若い子ども達が更に大きく成長して行くことを期待したいと思います。

メッセー  
ジボイス

各方面から寄せられた声をお届けします

メッセー  
ジボイス

子育て支援活動 —5年目を迎えて—

こども学科 教授 木村 龍平

子育て支援活動(通称「子育てプレイ広場」)於上野原キャンパス大学院棟4F保育実習室)を始めて5年目を迎えました。活動回数は100回以上を数え、毎回10組前後の親子が本学を訪れるようになりました。専門科目の授業や卒業研究との連携で、こども学科の学生も参加し広場は大変にぎやかです。

子育て支援活動は子育て中の「親」を支援する活動ですが、本学が所在する上野原市は三世帯同居世帯、祖父母の市内近居が多いためか、広場の子育て相談件数は少なく、子育て環境は総じて良いと考えています。授業では様々な社会的変容が子育て環境に与える影響や、支援者はどのような目的・心構えで活動に臨まねばならないかななどを事前指導します。そのためか最初は学生は緊張して来ますが、広場の和やかな雰囲気や母親と歳が近いこともあり、母親と積極的にコミュニケーションできるようになる学生が何名も現れます。もちろん、こども学科の学生は幼児の相手をするのは得意ですから、子ども達はいつにな

く楽しく遊んでもらっているようです。このように広場は講義で得た知識を実践する場となっています。

上野原市は現在「総合福祉保健センター構想」を手始めに市内保育所の集約を進めつつあり、同時に「子ども・子育て会議」を設置して子育て環境についてアンケートを行い、子育て世代のニーズに応えようとしています。こうした中、去る4月にある市立保育所が定員増、時間外保育の充実化、子育て支援施設を併設して新装開所しました。今後の市の子育て環境を占う大きな一歩なのですが、この保育所ともさまざまな教育・研究、そして子育て支援活動で連携し交流を進めていきたいと考えています。

広場には母親仲間の口コミで新しい子どもたちが次々にやってきました。今後も市の子育て環境の一角を占めつつ、保育者養成教育における実践の場としての役割を担っていきたく考えています。

キャリア支援センターだより

一人ひとりの適性や将来を見据えた懇切丁寧な面談を繰り返し、学生にとってのベストを見つけます。

キャリア支援センターは、就職支援だけでなく、学生の適性や将来まで見据えたキャリア教育を行うことを目的としています。

今、社会では大卒の新入社員の約3割が3年以内に退職すると言われています。その原因となる企業とのミスマッチを防ぐためにも、キャリア教育は必要です。そのために正課の授業として1年次から導入しています。

また、両キャンパスに合計6名配置しているキャリアカウンセラーによって、3年次の春に全局面談を行います。早期から就職活動に向けて希望を聞き取り、適性を知るために、面談は継続的に行います。

さらに、日常的に学生と関わる教員と連携しながら、就職活動に関する学生の動向を把握し、一人ひとりの学生にとってのベストを一緒に見つけていきます。

卒業式・入学式

●卒業式 平成26年3月17日(月)、日本武道館で平成25年度帝京大学グループ卒業式が厳かに挙行政され、学位を取得した学部生・大学院生が無事学舎を巣立って行きました。



今回の卒業式では、千住キャンパスの東京理学療法学科、東京

柔道整復学科、児童教育学科から初めての卒業生が出ました。卒業生・修了生のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

●入学式 平成26年4月4日(金)、日本武道館で平成26年度帝京大学グループ入学式が晴やかに挙行政されました。本学は学部生1,202名の新入生を迎えることができました。新入生が充実した学生生活を過ごされることを願っています。



新任教員の紹介 平成26年度 着任(8月1日現在)

〔アニマルサイエンス学科〕 古瀬 浩史 教授 小野寺 温 助教 今野 晃嗣 助教	〔東京柔道整復学科〕 杉山 涉 教授 佐藤 勉 助教	〔児童教育学科〕 神谷 純子 准教授 富岡 麻由子 講師
〔理学療法学科〕 相原 正博 助教 佐野 徳雄 助教	〔看護学科〕 奥宮 暁子 教授 齋藤 益子 教授 堀之内 若名 講師 森實 詩乃 講師	〔総合教育センター〕 宮下 智 教授 吉賀 成子 教授 淡路 佳昌 准教授 一色 哲 准教授 大橋 信行 准教授 岩沼 聡一郎 助教
〔柔道整復学科〕 鎌塚 正志 講師 佐野 秀明 講師	〔こども学科〕 加納 史章 助教 青木 直樹 特任助手	〔教職センター〕 高田 麻美 助教
〔東京理学療法学科〕 金子 千香 助教 鳥山 実 助教		

退任教員 平成25年度 退任

〔アニマルサイエンス学科〕 藤永 徹 特任教授 石黒 敏一 講師	〔東京柔道整復学科〕 志保井 義忠 教授 伊藤 譲 准教授 成田 英記 特任助手	〔児童教育学科〕 有村 久春 教授 梅澤 実 教授
〔理学療法学科〕 栗川 幹雄 講師	〔看護学科〕 高橋 景子 教授 立石 和子 准教授 岡本 紀子 講師	〔総合教育センター〕 石田 戡 特任教授 植屋 清見 教授 松島 成多 教授
〔柔道整復学科〕 安藤 博文 教授	〔東京理学療法学科〕 川井 伸夫 教授 前島 洋 教授 宮本 亘 講師	〔こども学科〕 田畑 満生 教授

【編集後記】 本学の大学祭は、千住キャンパスを「桜科祭」、上野原キャンパスを「科大祭」と称し実施しています。巻頭特集では、両キャンパスの大学祭を取り上げ、学生の取り組みを紹介しました。今後も学生の活躍にご注目ください。(ニューズレター部会 大橋 信行)

